

新たな働き方をめざしたパイロットオフィスの導入について

柔軟な働き方を推進し、生産性の高い職場環境づくりや職員が働きやすい環境を整備するため、ペーパーレスを原則とし、業務内容に応じて働く場所を職員自らが選ぶ新たな働き方(=Activity Based Working)を実践するパイロットオフィスを北館4階に導入した。

【実施部署】

・北館4階(政策企画課、経営戦略課、創造都市デザイン課、財政課、総務課)

※実施部署のPTIにより、レイアウト案・運用ルール等の検討を行い、新たなオフィス整備を実施した。



▲レイアウト変更後の執務室イメージ

①業務や会議の特性に合わせて活用できるスペースを整備



▲会議の人数や特性に応じた多様なスペース、集中ブースなどを配置

②柔軟な座席運用を可能とし、スペースを有効活用

従来の課長席をなくし、各課の業務に応じてフリーアドレスまたはグループアドレスを導入。スペースの有効活用とともに、組織間のコミュニケーションを促進。

③クラウド電話の導入

より場所を選ばない働き方を実現するため、既存の固定電話機を撤去し、全庁LAN端末で応答するクラウド電話を導入。

導入効果 ※北館4階職員対象アンケート結果より（回答数：40/67）

【主な効果】

- ・働く場を選択できるようになったことで、生産性の向上や働きやすさの改善につながった。
- ・固定席の概念が薄れたことで、他部署との心理的距離が縮まり、コミュニケーションがとりやすくなった。
- ・執務席にモニターが配備されたことにより、ペーパーレスや業務効率化につながった。
- ・収納数が現状比49%減となり、紙資料の削減につながった。
- ・北館4階全体の座席数が140%増となり、打合わせスペースの創出につながった。

今後は、各課の業務特性に合わせたより効果的なオフィスの運用を検討していく。

【スピード】必要な時にその場ですぐに相談・合意形成ができるようになり、業務の停滞が減った

【スピード】業務内容に合わせて「集中」と「対話」の場所を使い分けることで、個人の作業効率が向上した

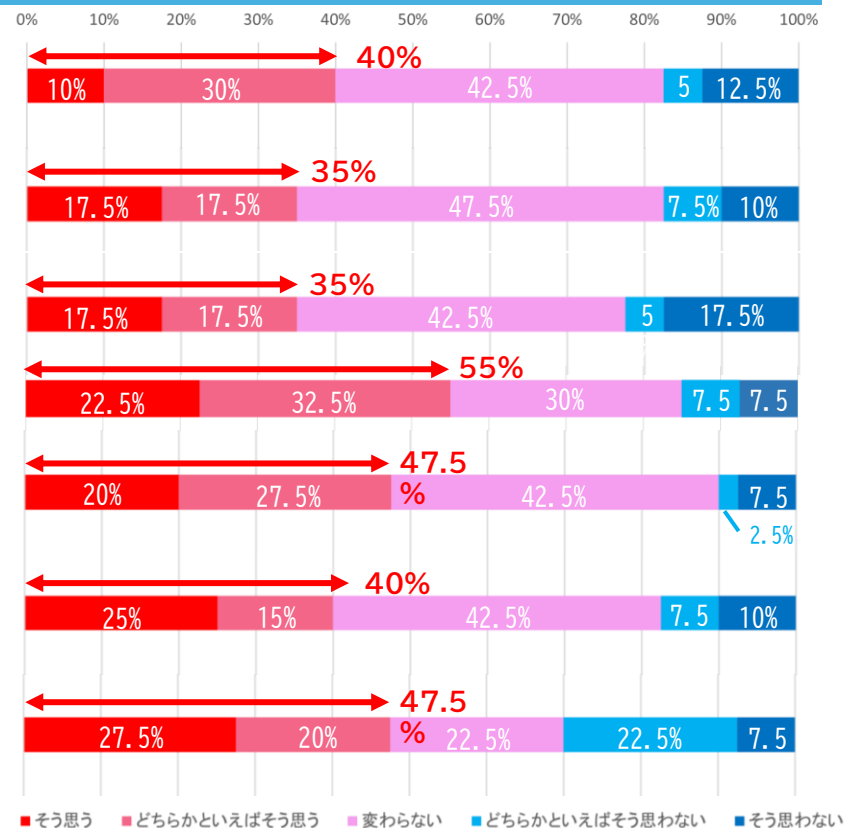
【クオリティ】部門を超えた交流や他者の視点に触れる機会が増えたことで、新たな着眼点やヒントが業務に活かされている

【クオリティ】デスク周りやオープンスペースで打合せができるようになったことで、組織・職員間のコミュニケーションが取りやすくなった

【モチベーション】業務内容や気分に合わせて場所を選べることで、気持ちを切り替えて前向きに仕事に取り組めるようになった

【モチベーション】働く場所を選べるようになったことで、自分なりに働き方を工夫しようとする意識が高まった

【働きやすさ】職場環境が改善されたことで、物理的・心理的なストレスが軽減し、快適に働けている



令和8年度の実施予定

南館3階(子ども家庭部、障がい政策課、障がいサービス課)、北館8階(施設経営課)にパイロットオフィスを導入予定